

# 松蔭中学校・高等学校美術部の挑戦

「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2023 beyond」 六甲山で魚釣り!? ”劇団・美術部” 始動!



神戸地方気象台より、  
午後一時の天気予報をお伝えします。

👉世界的アーティスト・川俣正氏の作品「六甲の浮き橋とテラス」が舞台!

# F I S H お魚天国 S T O R Y

六甲ミーツ・アート芸術散歩 2023 beyond



2023.8.26-11.23

Mt.Rokko in Kobe



オルゴールの調べとともに、  
”白い釣人たち”が登場。  
天気予報にご注意を。





湿った「鯖」が前線に流れ込む影響で、「嘘」の確率が80%を超える模様です。

お出かけの際は「ハイビスカス」をお持ちください。

緑の中を走り抜けてく真っ赤な金魚が、黒電話を届けに来ました。



流れ込む、湿った「サバ」。



サバの魚言葉は「嘘」。  
ハイビスカスの花言葉は「信じる心」。

**鯖** ハイビスカス  
サバ 花言葉【信じる心】  
魚言葉【嘘】







# 鯰<sub>ブリ</sub>

魚言葉【出会い】



# 黄色の薔薇

花言葉【別れ、嫉妬、薄れゆく愛】

《ブリの嫁入り》

晴天に雨が降る時、夫婦のブリが現れる。目撃した者に手渡す「黄色のバラ」。出会いと別れの天気雨。



明日は引き続きブリ模様となり、  
出会いの予感が高まります。

南東より黄色の薔薇が吹き込み、  
別れの気配を感じるでしょう。

寒暖差にご注意ください。





# 真鯛

マダイ  
魚言葉【宿命】

大型で、非常に強いマダイ十四号は、  
強力な「宿命」を保ちながら北上中です。

荒ぶる「真鯛 (の骨)」、破戒の「宿命」を背負って嵐とともに襲来！  
舞台からはみ出る勢いで暴れ回ります。



深夜に近づくにつれ、恋は遠ざかるでしょう。  
引き続き「蓮」の出現にもご注意ください。

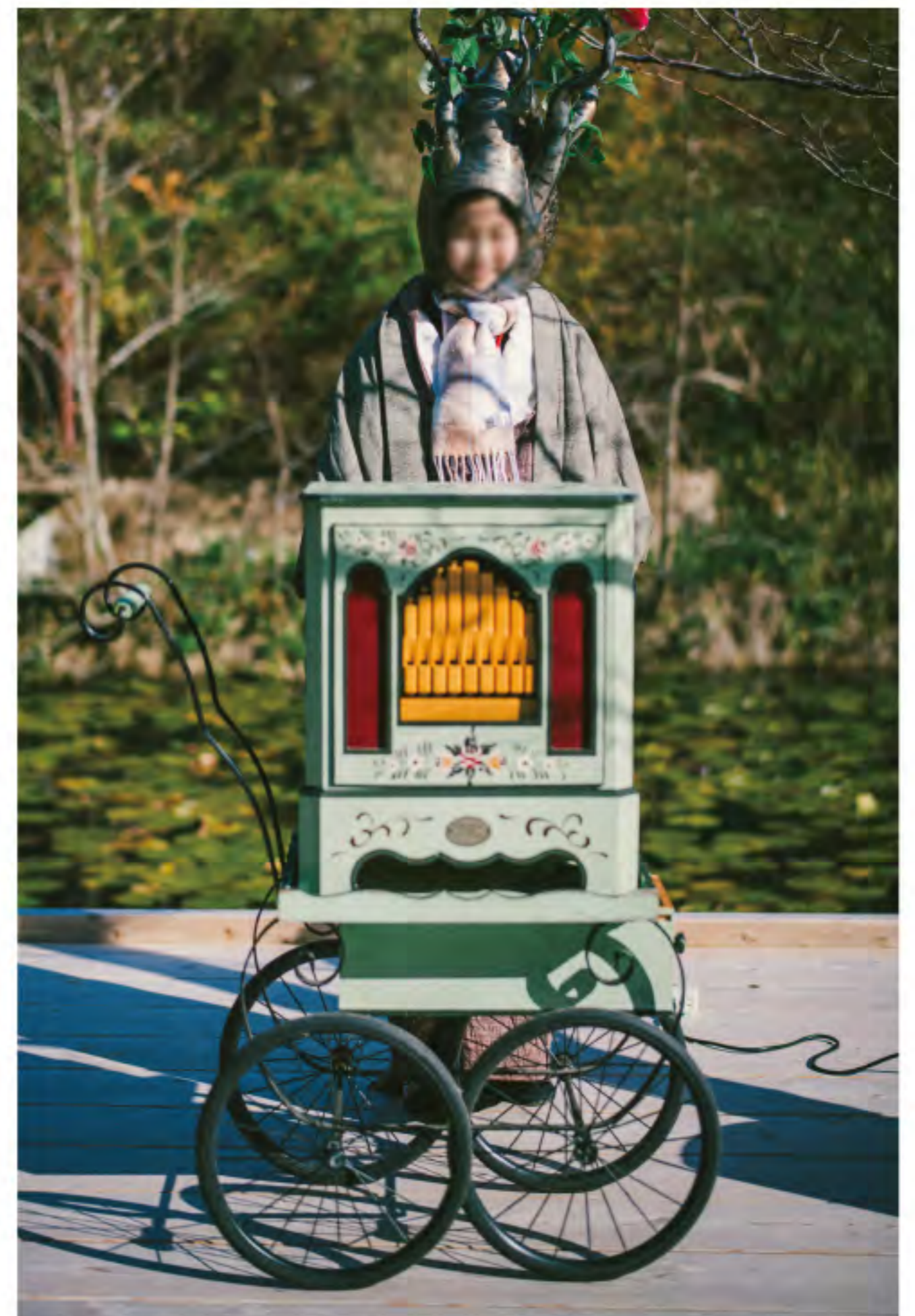


# 蓮

花言葉【遠ざかる恋】

嵐は遠ざかり、「蓮の花」へとメタモルフォーゼを遂げてクライマックスへ！





# 念ずれば、花開くかも。



☞ 森の音ミュージアムの収蔵品の一つである「手回しオルガン」を、特別な許可を得て使用させてもらっています。

釣り人たちは、蓮の開花とともに魚へと転生してゆくのです。

サバ成仏。蓮の中から天国へ。

「FISH STORY」・・・アメリカの慣用句で「ホラ話」「大袈裟な話」という意味。

釣り人が釣った魚を自慢するとき、実際より大きなサイズで喋ることが由来。

☞ 松蔭美術部は、部員の頭から出た「大袈裟なアイデア」を、白昼夢のような舞台に召喚しました。

次は、六甲山を下りて「下町芸術祭」へ！劇場型作品「注文の多いお魚屋さん」へと続きます。



PHOTO : junpei iwamoto

To Be continued





つまり、小型ビニールハウスを背負っている状態。  
六甲山に吹く風にも耐えられる、はず！（一回、折れました。）

# つくる

## 素材の転用

使えるものは、身近に  
ころがっています。



ビニールハウス用の棒を組み立てて、  
（グラスファイバー製で丈夫。）



タイツ用の布でピンと帆を張って、



可動ジョイントは靴ひも。



サバゲー用のタクティカルベスト。  
気分は立体起動装置！



フォーメーションが大事  
暗くなるまで練習！練習！



うん、いい感じ。

# 出会う

出展アーティストの作品は、ものごとのとらえ方にゆさぶりをかけます。

記憶に触れる。  
中崎透「Sunny Day Light」



身体で感じる。  
光岡幸一「そんなところ」

温度を感じる。  
加藤美沙「溢れる」



六甲山の景色がすごい！  
ここで作品に会う素晴らしさ。